

# 一人ひとりを大切にする具体的な保育

9

## 「流れる保育」への 疑問に答えて

ユリア

愛知県碧南市・へきなん保育園園長

### 1 ある園から届いた疑問

本誌2月号の原稿を書いている時、ある園からFAXが届きました。「おもちゃ、流れる保育のことで、職員から出た意見を送ります。アドバイスいただけると喜びます」と添えられ、以下のことが記されていました。

#### ■課題

〈おもちゃについて〉

1 夕方の合同保育の時、いろいろな種類のおもちゃが混ざってしまい、部屋の中がぐちゃぐちゃになり、職員が片づける

のが大変だった。

2 寝る前に、布団の上でおもちゃで遊ぶ子がいる。

〈給食を流れる保育にしてみよう〉

1 流れる保育の中で、何を大切にして食べるのがわからない。メリットをあまり感じない。

2 給食を流れる保育に変えて、順番に食べるようにしたら、全体の給食にかかる時間が延びてしまい、お昼寝の開始時間が遅くなった。また、職員と一緒に給食を食べられなくなってしまった。できれば、職員は子どもと一緒に食べたい。

3 次に食べたい子が待っているのに、食べている子を急がせてしまう。

4 食事を見たら子どもが寄って来てしまい、後の順番の子に我慢させているのかわいそう。

5 食べる順番を決める(番号をつける)

ことは、子どもを評価してるみたいで、個人差を感じてしまう。

6 子どもに食事の楽しさを伝えられない気がする。

7 後から食べる子は、温かい食べ物を食べられない。

8 アレルギーのある子への配慮が十分にできるか不安。

これを見て、「ああそうなんです」と思い、だいたいの答えのヒントは本誌2018年7月号からの連載で述べさせていただいた中にあるように思うけれど、人に伝えることは、本当に難しいと思いました。しかし、一人の疑問は皆の疑問ということで、この課題についてお伝えしたことをここでも述べさせていただきます。

### 2 おもちゃについて

1

それぞれの玩具で遊ぶスペースがありますか。例えば、ままごのある場所に、子どもの使いやすい高さで机があり、その机の高さに合った椅子があると、とても落ち着いて遊べるようです。机がない場合は往々にして、ままごの玩具が床面に広がってしまうようです。子どもにとって、出してすぐここで遊べるということが一目



●上・0歳児の食事  
下・0歳児の遊び

瞭然でわかるようになっていっているでしょうか。片づけについては、乳児の部屋では基本的に保育士が片づけます。部屋がぐちゃぐちゃになる前に、遊んでいない玩具についてはまめに片づけます。まめに片づけている保育士を見て、子どもたちにも片づけることが身についていくようです。

## 2

子どもたちが遊ぶ時間は十分に保障されているでしょうか。集団で動くとなると、動くたびに「待っててね」という言葉が多

## 3

### 給食を流れる保育にしてみよう

くなりがちですが、遊んでいる中で一人ひとりに丁寧にかかわるようになると、今まで待たせていた時間が、子どもたちにとつてすべて遊びの時間になります。子どもたちは満足して遊び、お昼寝から起きたら、また十分に遊べることをわかっているのです、眠い時はすつと安心して眠るようです。

## 1

子どもたち一人ひとり食べたと思っ

て食べているのですが、うまく食べられず、こぼれてしまうことが多くあります。そこで、ちゃんと食べられるように手助けをします。

今も、皆さんは、気持ちの上ではそうしていると思います。しかし、実際には全員が一緒に食べ、そのうえ保育士自身も一緒に食べている状態では、丁寧にみてあげようという気持ちはあっても物理的に難しいことです。

子どもがちゃんと食べられる手助けをするのに、その保育士が何人の子どもだったらかちんと見られるかと考え、見られる人数の子どもの手助けをします。ちなみに自園では、0歳児は1対1で食事を摂っています。

丁寧にみることで舌の動きなど、一人ひとりの発達もよく見えてきます。そして、嵐のようにではなく、落ち着いて食事が楽しめます。

## 2

時間がかかってしまう原因はいろいろ考えられます。状況を確認しないと助言は難しいですが、考えられることを少し述べてみます。

1つは、「よく見る」という意味を取り違えて、本当に「ただよく見る」というこ



●上・1歳児の食事  
下・1歳児の遊び

とをしている場合です。冗談ではなく、時々こういうことがあります。

「子どもの食べるペースを守ってあげてください」と伝えたりするので、子どもが食べるのをただ見ているということは、口の中のものが飲み込めた状態なら「次はどれを食べる?」とか、口が動いてないようなら「カミカミするよ」「おいしいね」など、様々な言葉を個別に掛けながら食事を進めていくこととなります。

しかし、保育士が子どもと落ち着いて向き合っていると、子どもも結果として落ち

着いて、集中して食べられるようです。

そして、保育士も一緒に食べながらよりも、子どもにかかわることが十分にできて、一人当たりの食事時間も10分〜20分位で終わっているようです。

もう1つは、「段取りの問題」です。

子どもが食べ始めてから、保育士が立ったり座ったり、ものを取りに行ったり…とバタバタしていることはないでしょう。

こうしたことが、考えられることかと思えます。

### 3

子ども一人ひとりに保育士が向き合い、落ち着いて食事が進むと、12人とか14人、また18人のクラスでも、だいたい1時間ぐらいで食べ終えています。

「次に食べたい子が待っている」という状態ではなく、子どもが遊んでいる状態が必要です。遊びの環境が整っているでしょうか。

### 4

無理もないことです。昨日まで皆で食べていて、急に今日から「順番に」といっても、当然食事に来てしまいます。私の園でも保育を変え始めた頃は、やはり担任から「来ちゃうんですけど、柵を作っていないですか」といわれることがあり、しばらく柵を設けたことがあります。じきに必要なくなりました。

毎日同じ手順で日常が繰り返されると、子ども自身が生活の流れをすぐに理解し、呼ばれなくても素晴らしいタイミングで食事の席に着いてくれるようになります。それは、小さくても生活の見通しが立つということです。そのことにより、日々の生活の中でも誰かに指示され、行動をするのではなく、自発的な活動が繰り返されることとなります。

- ① 2歳児の食事
- ② 2歳児の遊び



①

5

順番を決めるということが重要なことではなく、一人ひとりのペースに合わせ、必要な手助けをするための方法の1つと考えています。

「順番というのが、何か早く食べることがよい」といった考えがあるということでしょうか？そういうことではないのですが、

6

子どもたちは落ち着いて、一人ひとり丁

寧な会話ができるようです。

7

全員一斉で食べた時と、最後の子が食べ終えるまでにかかる時間は、ほぼ同じようです。ですから、温かい食べ物を食べられないことはないと思います。

8

保育士が子ども一人ひとりを丁寧に見るので、より丁寧な配慮ができるようです。



②

#### 4 まとめにかえて

以上のようなことをお伝えしたところ、「12月にとりあえず玩具を整理しだしたところで、一斉に食べる食事から食べ方を変えてまだ1週しかしていないという状況」とお聞きして、無理もないことだと思いました。

食事の手助けに関しては、丁寧に見ることとそれぞれの子どもを保障する、そうすると、食べ方もきれいになります。もちろん、手づかみで食べる過程なども大切にします。舌の動きなどもよく見えるので、個々の発達や安全により配慮できるようにです。また、それぞれの子どもの身体にとって必要な食事の量にも配慮します。乳児の食事については本誌2018年7月号で述べさせていただきましたので、ご参照いただけたらと思います。

また、物理的に玩具を増やしたり、食事の仕方を変えることと同様に、子どもたちに掛けている言葉が保育者の都合なのか、子どもを主体として掛けているのかを意識できたらよいと思います。

行きつ戻りつしながらも、一斉の集団保育も大切ですが、より一人ひとりが小さくても大切にされて育つ保育の方法が伝わり、実践されたいと思います。